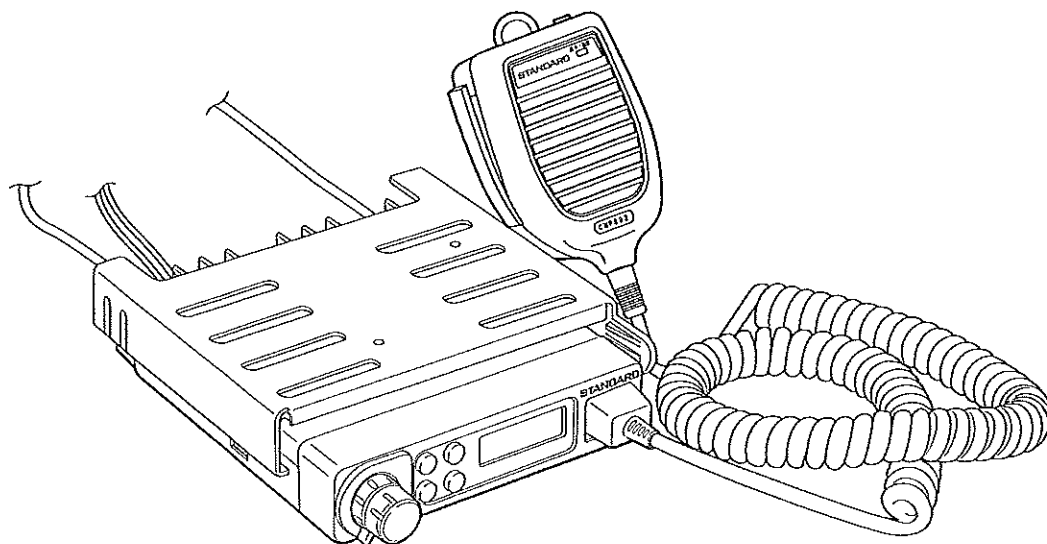




GX5550シリーズ

無線電話装置

取扱説明書



ご使用まえに

「安全上のご注意」では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意・危険を促す内容があることを告げるものです。左図の場合は、感電注意が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。左図の場合は、分解禁止が描かれています。



●記号は使用者の行為を指示することを告げるものです。左図の場合は、一般的な指示が描かれています。

安全上のご注意

- ご使用前に必ずこの「安全上のご注意」と「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- お読みになったあとは必ず保存してください。

警告

- 指定の電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- タコ足配線はしないでください。火災・過熱の原因となります。
- 濡れた手で電池や電源コネクタを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 当社指定の電源ケーブル以外を使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切ってください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。
- 万一、機器の内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切って販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
- 万一異物がこの機器の内部に入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切って販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
- 万一、この機器を落としたり、破損した場合は、まず機器本体の電源スイッチを切って販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。



警告

- 水につけたり、雨に濡らさないでください。
- この機器の上や近くに水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。



- この機器を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。火災・感電の原因となります。



- 端子を金属でショートさせないでください。火災・故障の原因となります。
- 近くに雷が発生したときは、電源コネクタを抜いてください。また、屋外にアンテナが設置されているときは、アンテナコネクタをはずしてください。雷によっては、火災・感電・故障の原因となります。
- 送信中にアンテナに触れないでください。やけど・けがの原因となります。
- 機器で指定されていないヒューズは使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 電源コードが傷んだら販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードがこの機器の下敷きにならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。

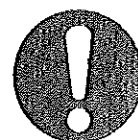


注意

- お手入れの際は安全のため電源コネクタを抜くか電池を外して行ってください。
- 移動させる場合は、電源コネクタを抜き、外部の接続線ははずしたことを確認の上、行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所、高温になる場所に置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
- 不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。
- 振動・衝撃の多い場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 電源コネクタを抜くときは、必ずコネクタを持って抜いてください。電源コードを引っ張るとコードが傷ついて火災・感電の原因となることがあります。



- 自動車などの運転中はこの機器を操作しないでください。安全運転の妨げになることがあります。
- 連続して送信をしないでください。機器が熱くなり、やけど・けがの原因となることがあります。



業務用無線電話装置GX5550シリーズをお買い上げいただき、ありがとうございます。お買い上げいただきました製品に、万一ご不審な点、お気づきの点がありましたら、なるべくお早めにお買い上げいただきました販売店あるいは(株)スタンダードの各営業所、サービスセンターへお申し付けください。

お使いになる前に、この取扱説明書を最後までお読みのうえ、正しくお使い下さい。

目次

1. 機器の概要	2
2. 機器の構成	3
3. 各部の名称と動作説明	4
前面	4
表示部	5
後面	5
簡易マイクアンドスピーカー(CMP892)	6
多機能マイクアンドスピーカー(CMP888)	7
4. 基本操作方法	9
起動と待受及び受信	9
送信	11
閉局	11
通話方法の例	12
5. 応用操作	13
メモリー呼び出し機能	13
ダイレクトページングコード機能	13
ページング着信表示機能	13
ラストページングコード呼び出し機能	14
スキャン機能(GX5550VFT/UFT)	14
ロック機能	14
マイク感度切り替え機能	14
エマージェンシー機能	15
オートスケルチ/マニュアルスケルチ切り替え機能	15
自局ページングコード表示機能	15
個別通話機能	16
6. ご使用上の注意	16
7. 取り付け場所と取り付け方法	17
8. 機器の保守方法	18
日常の保守点検	18
9. 故障とお考えになる前に	19
10. 定 格	20

1. 機器の概要

GX5550シリーズは小形、軽量で取り扱いの容易さを主眼に開発された業務用無線電話装置です。次のような特徴を持っています。

■ 信頼性重視

デジタル技術を駆使して機械的な調整箇所を少なくしました。主要回路をIC化し、各チップ部品は高度な表面実装技術により、4層スルーホール・ガラスエポキシ・プリント基板に配置しました。筐体はダイカストを使用し、より信頼性を向上させました。

■ 連続トーンスケルチ(CTCSS)内蔵

他局の通信をシャットアウトする機能です。

この連続トーンスケルチを動作させると、自局のトーン周波数と同じ周波数の局の通信だけを聞くことができます。

ご注意： 連続トーンスケルチ機能を使用する場合は、免許申請時にその利用を申請することにより、免許状にその周波数(トーン周波数)が指定されます。

■ デジタルコードスケルチ(DCS)内蔵

他局の通信をシャットアウトする機能です。

このデジタルコードスケルチを動作させると、自局のDCSコードと同じコードの局の通信だけを聞くことができます。

ご注意： デジタルコードスケルチ機能を使用する場合は、免許申請時にその利用を申請することにより、免許状にそのDCSコードが指定されます。

■ デジタルスケルチ機能内蔵(GX5550VACT/UCATのみ)

デジタルスケルチを動作させますと、同一ユーザー間での通信だけを聞くことができます。

ご注意： デジタルスケルチを使用すると通話距離が短くなる場合があります。

■ ページング機能 / エマージェンシー機能内蔵

ページングコードを指定して、特定の局を呼び出すことができます。この機能には、アンサーバック機能があります。したがって、相手局に確実に伝達されたことが分かります。

また、緊急の際には、グループ内でエマージェンシーコードを送受信できます。

ご注意： 電波が混信している場合は、正しく呼び出せないことがあります。

■ 個別通話機能

相手先のコードを指定して、特定の局を呼び出すことができます。

個別通話には、個別呼出の他に、グループ呼出、一斉呼出があります。

■ 2つのモニター方式

他局が通信中であることを確認するモニター方式は、2つの方法があります。話中表示方式とマイクハンガー方式です。話中表示方式は、話中表示が点灯することで、他局の送信を確認する方式です。マイクハンガー方式は、マイクハンガーをマイクフックより外し、他局の送信を音声で確認する方式です。ただし、マイクハンガー方式は話中表示方式との併用になります。

2. 機器の構成

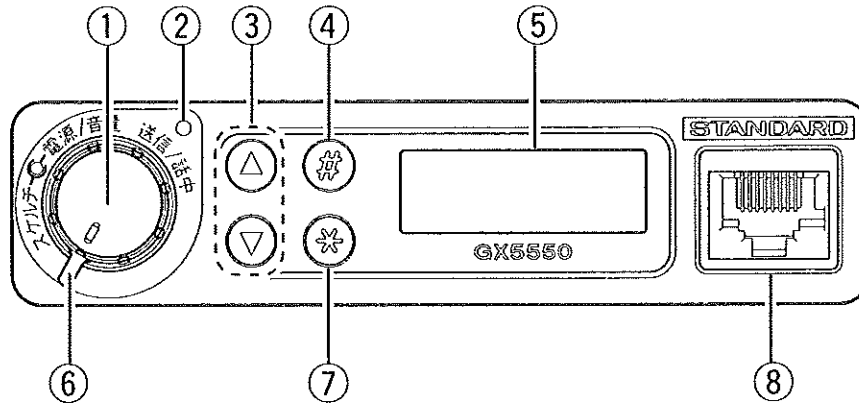
品名	数量	形式	備考
無線機本体	1	GX5550UCAT	契約の際のご指定により 各機能の追加可能
		GX5550VCAT	
		GX5550UFT	
		GX5550VFT	
マイクアンドスピーカー	1	CMP892	
本体取付金具	1		
電源ケーブル	1		長さ約3m
マイクハンガー	1		
マイクハンガーケーブル	1		長さ約2m
マイクハンガー取り付けビス	2		
予備ヒューズ	2		定格 5 A
取扱説明書	1		本書です
保証書	1		
営業所一覧	1		
空中線	1		契約の際のご指定による 一種類
多機能マイクアンドスピーカー	1	CMP888	契約の際のご指定による
基地局用電源	1	BS23	契約の際のご指定による

■ 多機能マイクアンドスピーカー (CMP888 : 別売)

GX5550シリーズ用として、ダイレクトにページングコードが入力できたり、手元でチャンネル番号が変更できる多機能なマイクを用意しました。

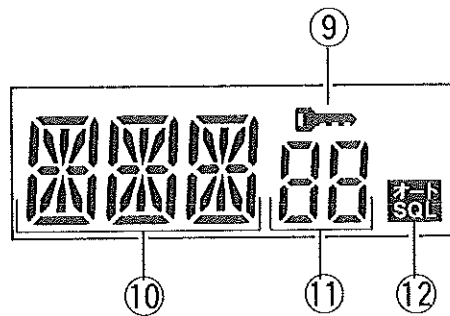
3. 各部の名称と動作説明

前面



- ① 電源スイッチ及び音量調節つまみ
 - 押す毎に電源の入/切を繰り返します。
 - また、右に回すと音が大きくなり、左に回すと音が小さくなります。
- ② 送信/話中表示
 - 送信状態になった時、赤色に点灯します。
 - 他局が通信中の時、あるいはスケルチつまみの調整がされていない時、緑色に点灯します。
- ③ チャンネルアップ・ダウンボタン
 - 複数チャンネル設定時に、このボタンを押すと、チャンネルが変更されます。
- ④ # ボタン
 - このボタンを押すと、ページングメモリーの呼び出し状態になります。
 - ページングメモリーの呼び出し状態のときは、このボタンを押すたびに、メモリーされているページングコードが切り替っていきます。
 - このボタンを押しながら、電源を入れると、マニュアルスケルチとオートスケルチの切り替えを行います。
- ⑤ 表示部
 - 詳細は、次ページをご覧ください。
- ⑥ スケルチつまみ
(マニュアルスケルチ設定時のみ有効)
 - 電波の状態により、明瞭に通信できるように調整します。
スケルチの調整は、信号を受けていない際に次のように行ってください。このつまみを左に回しきった位置から徐々に、右に回していき、話中表示が消えた位置で止めてください。
- ⑦ * ボタン
 - このボタンを押すと、ページングメモリーの呼び出し状態を解除します。
 - チャンネルが表示されているときに、このボタンを押すと、前回に発呼したページングコードが表示されます。
 - このボタンを押しながら、電源を入れると、マイク感度の設定が行えます。
- ⑧ マイクコネクター
 - マイクを接続します。

表示部



⑨ ロック表示

- 本体及びマイクのボタンがロック状態のときに表示されます。

⑩ モード表示I

- チャンネルまたはページングコードが表示されます。

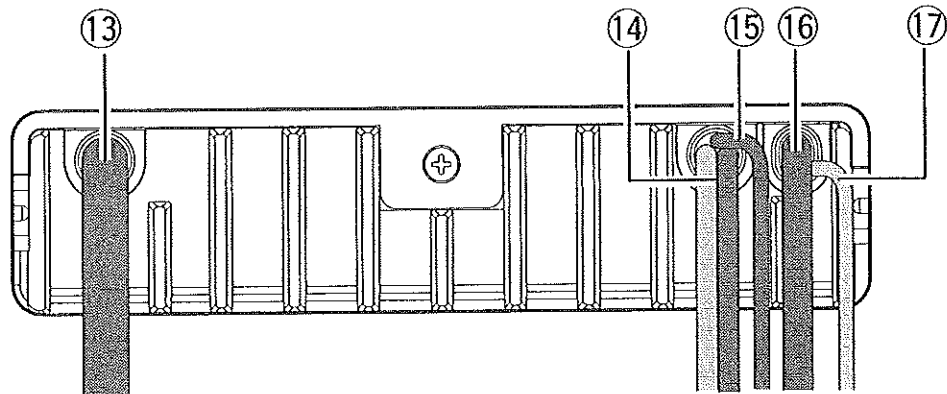
⑪ モード表示II

- モード表示Iにチャンネルが表示されているときに、「CH」が表示されます。
- モード表示Iにページングコードが表示されているときに、「PG」が表示されます。

⑫ オートスケルチ表示

- 無線機のスケルチ設定を、オート設定にしたときに表示されます。

後面



⑬ 空中線(アンテナ)接栓

- M型コネクタの空中線(アンテナ)を接続します

⑭ 電源ケーブル

- 12V系または24V系の電源と接続します。
これ以外の電源には絶対に接続しないでください。

⑮ 接地用ケーブル

- マイクハンガーを使って他局の通信をモニターする場合、このケーブルをマイクハンガーケーブルでマイクフックに接続します。

⑯ 外部スピーカー用ケーブル

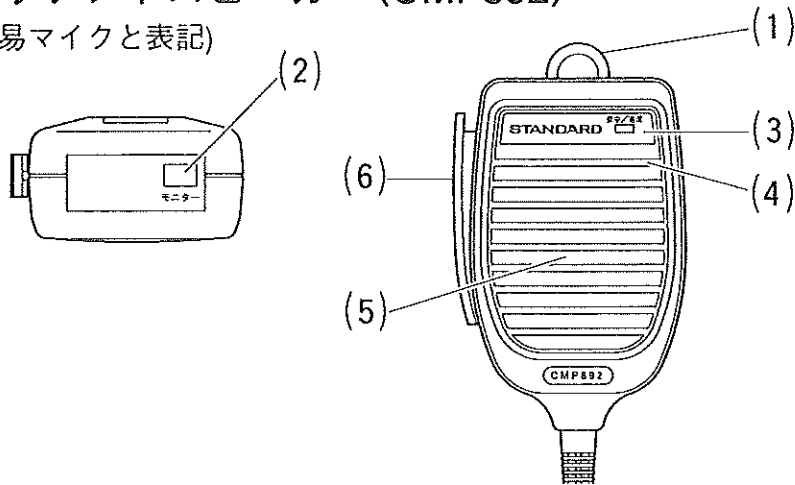
- 外部スピーカーを接続します。
(φ3.5ジャック使用)
外部スピーカーは、8Ω以上のものをお使いください。

⑰ エマージェンシー(EMG)用ケーブル

- エマージェンシー用スイッチを接続します。スイッチの接続に関しましては、お買い上げになった販売店または(株)スタンダードの各営業所・サービスセンターにお問い合わせください。

簡易マイクアンドスピーカー(CMP892)

(本文中、簡易マイクと表記)



(1) マイクハンガー

- マイクアンドスピーカーをマイクフックに掛けるための金具です。
- マイクフックから外すとモニターができます。マイクフックに掛けるとモニターは終了します。

ただし、この動作は次の場合には行えません。

1. 接地用ケーブルをマイクハンガーケーブルでマイクフックに接続していない場合。
2. 連続トーンスケルチ、デジタルコードスケルチまたはデジタルスケルチが働いていない場合。
3. マイクハンガー機能無効の場合。

(2) モニターボタン

- 通話状況がモニターできます。
- このボタンを押しながら、電源を入れると、キーロックの設定/解除の切り替えが行えます。
- モニター時間は、1～10秒の間から選んで設定できます。または、モニターボタンを押す度に、モニター・オン/オフを切り替えるトグル動作が設定できます。設定に関しましては、お買い上げになった販売店または(株)スタンダードの営業所・サービスセンターにお問い合わせください。

(3) 話中(緑)/送信(赤)表示

- 他局が通話中の時、あるいはスケルチツマミの調整がされていない時、緑色に点灯します。
- 送信状態になった時、赤色に点灯します。

(4) マイク

- 送信時は、この面に向かって話します。

(5) スピーカー

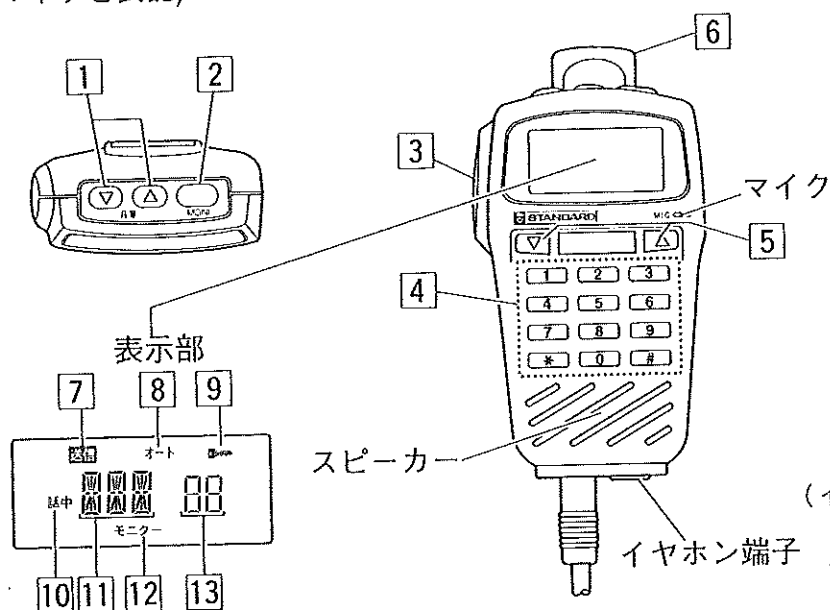
- 受信状態の時に音がでます。基地局用電源BS23を御使用の際は、BS23のスピーカーも使用できます。

(6) プレスボタン

- 押すと送信、離すと受信状態となります。
- 送信時間は、1～5分の間または制限無しから選んで設定できます。設定に関しましては、お買い上げになった販売店または(株)スタンダードの営業所・サービスセンターにお問い合わせください。

多機能マイクアンドスピーカー(CMP888)

(本文中、多機能マイクと表記)



(イヤホンは、インピーダンスが8Ω以上のものをお使いください。)

① 音量アップ・ダウンボタン

- 音量ダウンボタン(▼)を押すと、音量が小さくなります。音量アップボタン(▲)を押すと、音量が大きくなります。
- マイクアンドスピーカーを使っている音量調整は、電源を切ると解除されます。音量を固定したい場合は、音量調節ツマミで行ってください。

② モニターボタン

- このボタンを押すと、通話状況がモニターできます。
- このボタンを押しながら、電源を入れると、キーロックの設定/解除の切り替えを行います。

③ プレスボタン(PTTスイッチ)

- このボタンを押すと送信、離すと受信状態となります。

④ 数字ボタン

- このボタンを押して、ページング機能を使用します。
- 0~9： ページングコードダイレクト入力時に使います。

#： このボタンを押すと、ページングメモリーの呼び出し状態になります。ページングメモリーの呼び出し状態のときは、このボタンを押すたびに、メモリーされているページングコードが切り替わっていきます。

*： このボタンを押すと、ページングメモリーの呼び出し状態を解除します。チャンネルが表示されているときに、このボタンを押すと、前回に発呼したページングコードが表示されます。

⑤ チャンネルアップ・ダウンボタン

- 複数チャンネル設定時に、このボタンを押すと、チャンネルが変更されます。

⑥ マイクハンガー

- マイクアンドスピーカーをマイクフックに掛けるための金具です。
- マイクフックから外すとモニターができます。マイクフックに掛けるとモニターは終了します。ただし、この動作は次の場合行えません。
 1. 接地用ケーブルをマイクハンガーケーブルでマイクフックに接続していない場合。
 2. 連続トーンスケルチ、デジタルコードスケルチまたはデジタルスケルチが働いていない場合。
 3. マイクハンガー機能無効の場合。

- 7] 送信表示
 - 無線機が、送信状態のときに表示されます。

- 8] オート表示
 - 無線機のスケル設定を、オート設定にしたときに表示されます。

- 9] ロック表示
 - 本体及びマイクのボタンがロック状態のときに表示されます。

- 10] 話中表示
 - 他局が通話中のとき、またはスケルチツマミの調整がされていない時に表示されます。

- 11] モード表示I
 - ページングコードまたはチャンネルが表示されます。

- 12] モニター表示
 - モニターボタンが押されたときに表示されます。

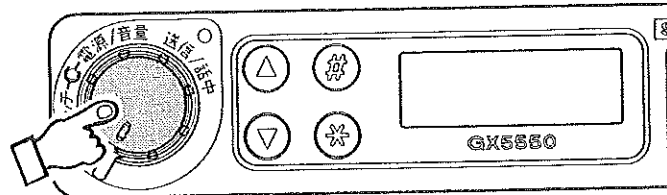
- 13] モード表示II
 - モード表示Iにチャンネルが表示されているときに、「CH」が表示されます。
 - モード表示Iにページングコードが表示されているときに、「PG」が表示されます。

4. 基本操作方法

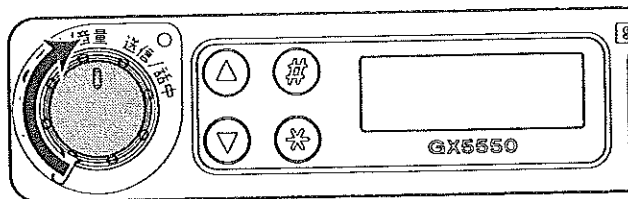
起動と待受及び受信

1 電源スイッチを押すと電源が入ります。

表示部が橙色に点灯します。



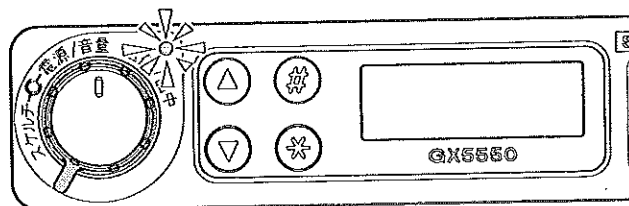
2 音量調節つまみを半分くらい回します。



3 マニュアルスケルチを設定している場合

マニュアルスケルチの場合、受信したい信号レベルを手動で調整できます。

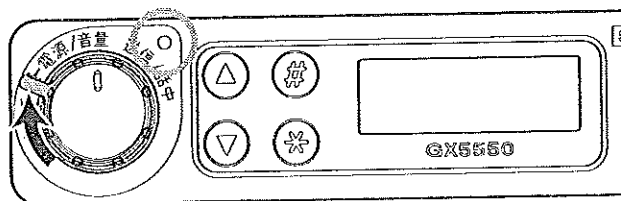
1) スケルチつまみを左に回し切ります。このとき話中表示(緑色)が点灯します。



● 連続トーンスケルチ、デジタルコードスケルチ及びデジタルスケルチを使用しない場合は、スピーカーより「ザー」という雑音が聞こえてきます。

● 連続トーンスケルチ、デジタルコードスケルチまたはデジタルスケルチを使用する場合は、次のようになります。受信音のモニターをマイクハンガー方式で行っているときは、マイクをマイクフックから外すと、「ザー」という雑音が聞こえてきます。

2) スケルチつまみを徐々に、右に回していきます。話中表示(緑色)が消えた位置で止めてください。なお、必要以上に右に回すと微弱な電波を受信できなくなります。



4 オートスケルチを設定している場合

オートスケルチが設定されている場合は、表示部に **SoL** が表示されます。

オートスケルチの場合は、設定された信号レベル以上の信号を自動で受信します。

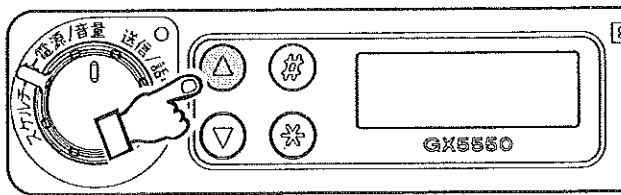
#ボタンを押しながら、電源を入れる度にオートスケルチとマニュアルスケルチの設定は切り替わります。

5 手順3または4が終わった状態で信号が入ると話中表示(緑色)が点灯します。

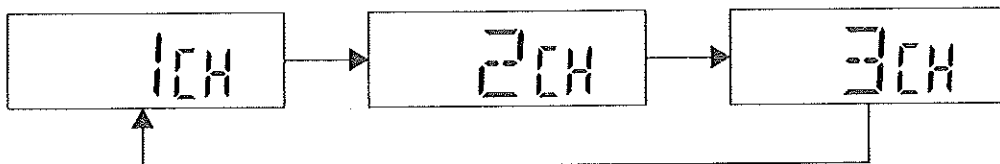
- 連続トーンスケルチ、デジタルコードスケルチ及びデジタルスケルチを使用しない場合は、スピーカーより音声が聞こえてきます。
- 連続トーンスケルチ、デジタルコードスケルチまたはデジタルスケルチを使用する場合は、次のようになります。連続トーンスケルチの場合、自局のトーン周波数と同一トーン周波数の局の音声がスピーカーから聞こえます。デジタルコードスケルチの場合、自局のDCSコードと同一DCSコードの局の音声がスピーカーから聞こえます。デジタルスケルチの場合、同一設定のグループの局の音声がスピーカーから聞こえます。受信音のモニターをマイクハンガー方式で行うと、マイクをマイクフックから外すことで他局の受信音もスピーカーから聞こえてきます。

6 チャンネルの変更

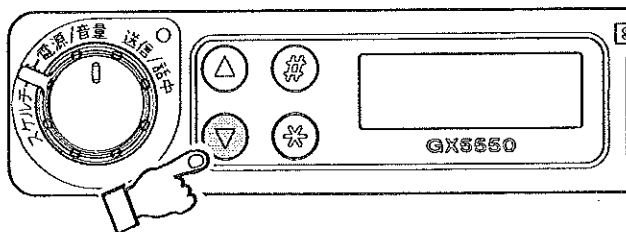
- 複数のチャンネルが設定されている場合、チャンネルの変更が行えます。
- 1) チャンネルアップボタン(▲)を押すと、「ピッ」という音が鳴りチャンネルが変わります。再度、チャンネルアップボタン(▲)を押すと、「ピッ」という音が鳴りチャンネルが変わります。



(例：3つのチャンネルが設定されている場合)



- 2) チャンネルダウンボタン(▼)を押した場合、アップボタンを押した時と逆にチャンネルが変わります。

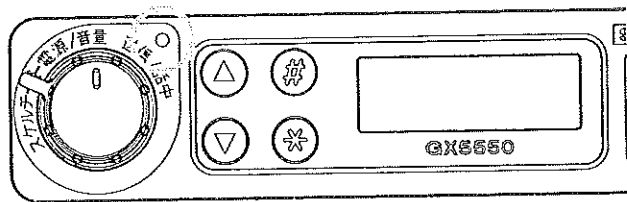


アドバイス

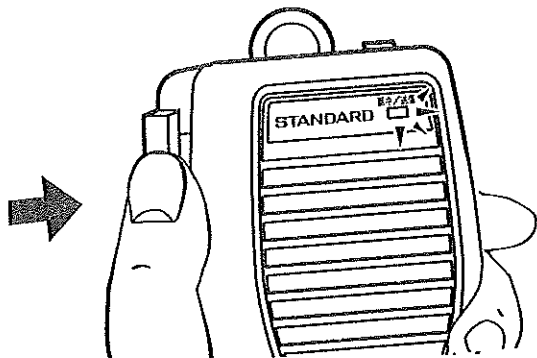
- ・ 表示を見なくても、ボタンを押して、チャンネル1に戻った場合は、「ピポッ」という音が鳴りお知らせします。
- ・ チャンネル番号が異なると通話できません。相手局の了解を得てからチャンネルの変更を行ってください。

送信

1 送信する前には必ず本体またはマイクの話中表示が消えていることを確かめて下さい。



2 マイクのプレスボタンを押します。



このとき本体及びマイクの送信表示(赤色)が点灯します。

3 マイクは、口もとから5 cmぐらい離して、ゆっくり明瞭に話します。

4 送話が終わったら直ちにプレスボタンを離します。

このとき本体及びマイクから送信表示が消え、待受状態になります。

閉局

送受信が終わり閉局する時は、その旨を相手局(基地局)に伝えてから電源スイッチを押します。電源を切ると表示部が消えます。

通話方法の例

通話方法は下記の交信例のようになって下さい。

呼出しするとき

「相手局の呼出名称」	3回以下	[スタンダード2号 スタンダード2号 スタンダード2号]
「こちらは」	1回	[こちらは]
「自局の呼出名称」	3回以下	[スタンダード1号]
「どうぞ」	1回	[どうぞ]

応答するとき

「相手局の呼出名称」	3回以下	[スタンダード1号]
「こちらは」	1回	[こちらは]
「自局の呼出名称」	1回	[スタンダード2号]
「どうぞ」	1回	[どうぞ]

ご注意： マイクハンガー機能を使用する場合は、マイクをマイクフックに掛けたまま
プレスボタンを押しても送信しません。必ず、マイクフックから外し、ス
ピーカーから音声が出ていないことを確かめてから、送信してください。

お互いのチャンネル番号が異なると通話できません。あらかじめ、チャン
ネル番号を合わせてご使用ください。

無線電話装置の設定や機能等に関しては、お買い上げになった販売店または(株)スタン
ダードの各営業所・サービスセンターにお問い合わせください。

5. 応用操作

メモリー呼び出し機能

(本体または多機能マイクでの操作です。)
メモリーされているページングコードを使い、
運用します。

- 1) 表示部にチャンネルが表示されているときに、
本体または多機能マイクの#ボタンを押しま
す。
(前回呼び出したページングコードが表示されま
す。呼び出したコードが無い場合は、「—」にな
ります。)

(例：前回呼び出した
ページングコードが
55のとき)

- 2) #ボタンを何度か押し、発呼したいページング
コードにします。

(例：呼び出すページ
ングコードが56のとき)

- 3) プレスボタンを押します。
(表示されているページングコードが発呼さ
れ、チャンネル表示に戻ります。)
- 4) 呼んだ相手が着信すると、「ピーピーピー」と
いう音が鳴ります。相手が着信しないと、「ポ
ポッ」という音が鳴ります。

アドバイス

- ・ プレスボタンを押すまでに、*ボタンを押すか、5秒
間操作をしないとチャンネル表示に戻ります。
- ・ GX5550VFTおよびGX5550UFTでのページングコー
ドは、3桁表示になります。
- ・ 簡易マイク(CMP892)をご使用の際は、ページング
コードを事前にメモリーしておいてください。簡易マ
イクを使っでは、ページングコードを入力することが
できません。
- ・ ページングコードのメモリー方法については、お買い上
げになった販売店または(株)スタンダードの営業所ま
たはサービスセンターにお問い合わせください。

ダイレクトページングコード機能

(多機能マイクのための操作です。)

数字ボタンを操作して、ページングコードを設
定し、相手局を呼び出します。

- 1) 表示部にチャンネルが表示されているときに、
多機能マイクの0~9のボタンを押し、ページ
ングコードを入力します。

(例：呼び出すページ
ングコードが1桁の時
は、そのコードの前
に0が付きます。)

(例：呼び出すページ
ングコードが2桁の
時。)

(例：3桁以上入力した
ときは、最後の下2桁
のみが表示されま
す。)

- 2) プレスボタンを押します。
(入力したページングコードが発呼され、チャ
ンネル表示に戻ります。)
- 3) 呼んだ相手が着信すると、「ピーピーピー」と
いう音が鳴ります。相手が着信しないと、「ポ
ポッ」という音が鳴ります。

アドバイス

- ・ プレスボタンを押すまでに、*ボタンを押すか、5秒間
操作をしないとチャンネル表示に戻ります。また、#
ボタンを押すとメモリー呼び出し機能に切り替ります。
- ・ GX5550VFTおよびGX5550UFTでのページングコー
ドは、3桁表示になります。

ページング着信表示機能

ページングにて呼ばれたときに、発呼元のペー
ジングコードを表示します。また、着信したこ
とを発呼元に知らせるために自動的に、ペー
ジングを発呼します。プレスボタンを押すこと
で着信表示機能が解除され、発呼元と通話する
ことができます。

- 1) チャンネルが表示されています。
- 2) ページングコードを着信すると、発呼元のペー
ジングコードを表示し、「ピッピッピッピッ」
と鳴ります。
(相手に着信したことを知らせるために、自動的
に数秒間ページングコードを発呼します。)

(例：発呼元のページ
ングコードが67のとき)

- 3) プレスボタンを押して通話すると、チャンネル表
示に戻ります。)

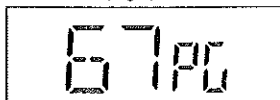
アドバイス

- ・ プレスボタンを押すまでに、*または#ボタンを押し
ても、チャンネル表示に戻ります。

ラストページングコード呼び出し機能

(本体または多機能マイクでの操作です。)
最後に発呼したページングコードまたは着信したページングコードを使って、発呼できます。

- 1) 表示部にチャンネルが表示されているときに*ボタンを押します。
(最後に発呼したページングコードまたは着信したページングコードのどちらか新しい方が表示されます。)



(例：最後に着信したページングコードが67のとき)

- 2) プレスボタンを押します。
(表示されているページングコードが発呼されます。)

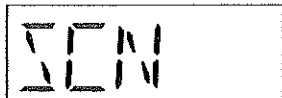
アドバイス

- ・ プレスボタンを押すまでに、*ボタンを押すか、5秒間操作をしないとチャンネル表示に戻ります。また、#ボタンを押すとメモリー呼び出し機能に切り替ります。
- ・ 電源を切ると、ラストページングコードの内容は消去されます。

スキャン機能(GX5550VFT/UFT)

(本体または多機能マイクでの操作です。)
チャンネルを自動的に変えて、受信します。

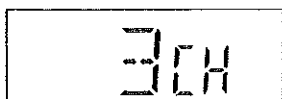
- 1) 表示部にチャンネルが表示されているときにチャンネルアップボタン(▲)ボタンまたはチャンネルダウンボタン(▼)を1秒以上押し続けます。



- 2) 受信したチャンネルでスキャンが一時停止します。
(3チャンネルで受信した場合)



- 3) チャンネルアップボタン(▲)ボタンまたはチャンネルダウンボタン(▼)を押し、スキャンを停止します。
(最後に受信したチャンネルが表示されます。)



アドバイス

- ・ 各チャンネルごとに、スキャンメモリーのON/OFFが設定できます。スキャン機能を使うには、スキャン機能の設定を有効にしなければなりません。スキャン機能の設定およびスキャンメモリーの設定については、お買い上げになった販売店または(株)スタンダードの各営業所・サービスセンターにお問い合わせください。

ロック機能

(簡易または多機能マイクでの操作です。)
この機能を使うと、本体及びマイク(0~9、#、*、▲、▼)のボタンが使えなくなります。

- 1) モニターボタンを押しながら、電源を入れます。
- 2) マークが表示されます。
(ロック機能が働いていることを表示しています。)



- 3) この機能を解除するには、一度電源を切り、モニターボタンを押しながら、電源を入れます。

アドバイス

- ・ この機能は、電源を切っても、記憶されています。

マイク感度切り替え機能

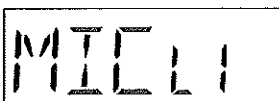
(本体のみの操作です。)

この機能を使うと、マイク感度を切り替えることができます。

- 1) *ボタンを押しながら、電源を入れます。
(マイク感度が表示されます。)



- 2) チャンネルダウンボタン(▼)を押すと、マイク感度が下がります。
再び、マイク感度を上げるには、チャンネルアップボタン(▲)を押します。
(マイク感度は3段階の切り替えが可能です。)



- 3) 通常の操作に戻るには、設定したいマイク感度を表示した後で、一度電源を切り、再度電源を入れます。

アドバイス

- ・ この機能は、電源を切っても、記憶されています。
- ・ L1がマイク感度最小です。
- ・ 上記3段階以外のマイク感度に設定される場合は、お買い上げになった販売店または(株)スタンダードの各営業所・サービスセンターにお問い合わせください。

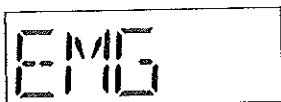
エマージェンシー機能

この機能を使うと、次のいずれかの方式で、他の人に非常事態を知らせます。

- ・ボリューム最大でブザーを鳴らす。
 - ・同一グループ内で緊急コードの送受信を行う。
 - ・ボリューム最大でブザーを鳴らしたうえ、同一グループ内で緊急コードの送受信を行う。
- 但しこの動作は予め設定しておく必要があります。

エマージェンシーコードの送信

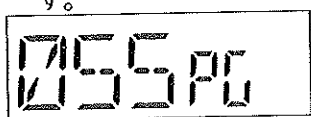
- 1) 表示部にEMGが表示されるまで、エマージェンシースイッチを押し続けます。



- 2) エマージェンシースイッチを離します。

エマージェンシーコードの受信

- 1) エマージェンシーコードを受信すると、発呼側のページングコードとEMGが交互に表示されます。



(例：発呼元のページングコードが055のとき)



- 2) 通常の操作に戻るには、EMGが消えるまで、エマージェンシースイッチを押し続けるか、電源を入れ直します。



アドバイス

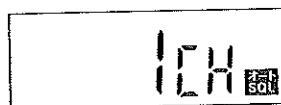
- ・ エマージェンシーコードを受信すると、本機は受信および送信ができなくなります。また、エマージェンシーコードを送信しても、本機は受信および送信ができなくなります。通常の通信を行うためには、エマージェンシー機能を解除してください。
- ・ 受信したエマージェンシーコードは、記憶されません。エマージェンシー機能を解除する前に、メモを取ることをお勧めします。
- ・ エマージェンシー用スイッチ及び設定に関しましては、お買い上げになった販売店または(株)スタンダードの各営業所・サービスセンターにお問い合わせください。

オートスケルチ/マニュアルスケルチ切り替え機能

(本体のみの操作です。)

この機能を使うと、オートスケルチとマニュアルスケルチを切り替えることができます。

- 1) #ボタンを押しながら、電源を入れます。オートスケルチが設定されたときは、が表示されます。マニュアルスケルチが設定されたときは、は表示されません。



- 2) オートスケルチとマニュアルスケルチを切り替えるには、一度電源を切り、再度#ボタンを押しながら電源を入れます。

アドバイス

- ・ この機能は、電源を切っても、記憶されています。
- ・ マニュアルスケルチの場合は、必ずスケルチを調整してください(4ページ参照)。スケルチが調整されていないと、ページングコード等を着信しにくくなります。

自局ページングコード表示機能

(本体または多機能マイクでの操作です。)
この機能を使うと、自局のページングコードが表示されます。

- 1) 表示部にチャンネルが表示されているときに、*ボタンを2秒以上押し続けます。



(例：自局ページングコードが23のとき)

- 2) チャンネルの表示に戻るには、*ボタンを押します。または、5秒間何も操作しないと、チャンネルの表示に戻ります。

アドバイス

- ・ ページング機能が設定されていないチャンネルでは、この機能は無効です。

個別通話機能

(本体または多機能マイクでの操作です。)
この機能を使うと、特定の局を呼び出すことができます。
個別通話には個別呼出の他にグループ呼出、一斉呼出の方式があります。

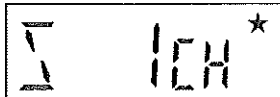
送信

- 1) チャンネルアップボタン (▲) またはチャンネルダウンボタン (▼) を押し、チャンネルを選択します。
- 2) プレスボタンを押します。
- 3) マイクに向かってお話しください。

アドバイス

- ・ 呼出方式(個別、グループ、一斉)に応じて表示部は以下ようになります。
- ・ 設定により、相手局へ正常に着信したか確認音を鳴らすことができます。

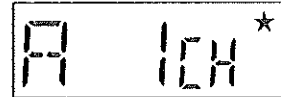
個別呼出：特定の局を呼び出します。



グループ呼出：特定のグループ局を呼び出します。



一斉呼出：全ての局を呼び出します。



受信

- 1) 発呼元からの呼び出し方式に応じて着信音[ピピピ]が鳴り続けます。
- 2) 発呼元のコード番号を表示、点滅します。
- 3) プレスボタンを押して応答します。発呼元と通話することができます。

個別通話のメモリー方法については、お買い上げになった販売店または(株)スタンダードの営業所またはサービスセンターにお問い合わせください。

6. ご使用上の注意

- 1 通話を開始するとき。
アンテナを取り付けないで送信しないで下さい。
- 2 送信する前に必ず信号のないことを話中表示(緑色消灯)で確かめて下さい。
- 3 相手局が話し終わってから送信して下さい。相手局が送信している間に、こちらから送信しても相手局では受信できません。
- 4 指定のマイク以外は絶対に使用しないで下さい。
- 5 通信は免許状に記載されている目的、通信の相手方及び通話事項の範囲内で行ってください。
- 6 通話はできる限り簡潔に行ってください。1回の通話時間は5分を超えないでください。
- 7 長時間の使用等により、本体が高温となりますので、手足など直接肌に触れないようにして下さい。
- 8 相手局とチャンネル番号が異なると通話できません。必ずチャンネル番号を合わせてご使用ください。また、チャンネルを変更する場合は、相手局の了解を得てからチャンネルの変更を行ってください。

7. 取り付け場所と取り付け方法

本装置の据え付け場所を決定する際には、次の点に注意してください。

- ① ストーブ、スチーム、ヒーター等の発熱体の近くや日光の直射を受ける場所は避けてください。
- ② 極度な振動・衝撃を受けやすい場所は避けてください。
- ③ アンテナ同軸ケーブル、その他のケーブルの配線が容易な場所を選んでください。
- ④ 操作のしやすい場所を選んでください。
特に自動車に取り付ける場合には、ダッシュボードの下など運転の邪魔にならない場所を選んでください。

取り付け方法

● 自動車に取り付ける場合

- ① 付属している取り付け金具を用意します。
- ② ダッシュボードに金具の位置に合わせ、穴を開けネジ止めします。

ご注意： 走行中の振動に充分耐えるようしっかりと固定してください。

- ③ アンテナ同軸ケーブル、電源ケーブル等を本体に接続します。

ご注意： 電源ケーブルは赤線を⊕極に、黒線を⊖極(アース)に接続してください。

- ④ 本体を取り付け金具に取り付けます。
- ⑤ 連続トーンスケルチ、デジタルコードスケルチまたはデジタルスケルチを使用し、マイクハンガー機能を有効にした場合は、マイクハンガーをマイクハンガーケーブルで必ず接地用ケーブルに接続してください。

● 机、台の上に取り付ける場合

- ① 付属している取り付け金具を用意します。
- ② 机、台に金具の位置に合わせ、ネジ止めします。
- ③ アンテナ同軸ケーブル、電源ケーブル等を本体に接続します。

ご注意： 電源ケーブルは赤線を⊕極に、黒線を⊖極(アース)に接続してください。

- ④ 本体を取り付け金具に取り付けます。
- ⑤ 連続トーンスケルチ、デジタルコードスケルチまたはデジタルスケルチを使用し、マイクハンガー機能を有効にした場合は、マイクハンガーをマイクハンガーケーブルで必ず接地用ケーブルに接続してください。

8. 機器の保守方法

日常の保守点検

機器は保守の適否により寿命が非常に左右されるものです。常に最良の動作条件に保つためには定期的に点検を行ってください。また、その結果を記録しておくことをおすすめします。これにより、故障などを早期に発見したり、未然に防ぐことができます。従って日課として下表のような点検をすることをおすすめします。

順序	点検個所	点検内容
1	入力電圧の点検	バッテリーと電源ケーブルとの接続状態 ヒューズソケットの接触状態
2	空中線(アンテナ)の点検	空中線の取付状態 空中線接栓の接触状態
3	電源スイッチの点検	「ON」にして速やかに起動しますか？ 表示灯は点灯しますか？
4	「スケルチ」ツマミの点検 (マニュアルスケルチの場合)	ツマミを右回転(時計方向)させた時、話中表示(緑色)が消灯しますか？
5	「音量」ツマミの点検	ツマミを回転させた時、滑らかに受信音や雑音を増減しますか？
6	スピーカー音による受信性能の点検	いつもより雑音量が極端に増減していませんか？ 「音量」「スケルチ」両ツマミは、定位置を決めておくとう便利です
7	プレスボタンの点検	プレスボタンを押して、送信状態になりますか？
8	他局との通話による送受信状態の点検	いつもの通り通話ができますか？ 相手局を決めておくとう(例えば基地局)便利です
	連続トーンスケルチ、デジタルコードスケルチまたは、デジタルスケルチを装備した時の点検	連続トーンスケルチ時に、同一トーン周波数の局と平常どおり通話できますか？ デジタルコードスケルチ時に、同一DCSコードの局と平常どおり通話できますか？ デジタルスケルチ時に、同一設定のグループの局と平常どおり通話できますか？

9. 故障とお考えになる前に

- ① 電源スイッチを入れても、表示部が点灯しない。
 - ヒューズ切れ。
 - 電源ラインの接触不良。
 - コンセント、または電源コード接続部の抜け。
- ② 受信音が聞こえない。
 - 音量ボリュームを左に回しきっている。
 - スケルチつまみを右に回しきっている。
 - マイクをフックに掛けたままの場合、トーンスケルチまたはデジタルコードスケルチが内蔵であると音が出ない。(マイクをフックより外して見る。)
- ③ ノイズは聞こえるが受信音が聞こえない
 - 空中線(アンテナ)の抜け。
- ④ 受信音が小さい。
 - 音量ボリュームが左側に回しきってある。
- ⑤ スケルチつまみを回しても、ノイズ音がなくなる。
 - 他局の電波が入感しているとき。
- ⑥ マイクハンガーにマイクを接続しておいても、他局の信号が入る。(マイクハンガー機能有効設定時)
 - マイクハンガーとマイクの接触不良。
 - マイクハンガーケーブルのはずれ、切れ。
 - 他局も同一周波数、同一トーン周波数である場合。
 - 他局も同一周波数、同一DCSコードである場合。
- ⑦ 送信しない。
 - 7-1.送信表示ランプが点灯する。
 - アンテナ系統の接続はずれ、接触不良。
 - 7-2.送信表示ランプが点灯しない。
 - マイクコネクタのはずれ。
 - マイクハンガー機能有効設定時、マイクをマイクハンガーに掛けたまま、プレスボタンを押しても送信しません。

10. 定 格

一 般

電波型式 F3E、F2D
通信方式 プレストーク式

送信部

送信出力 1～5 W
1～10 W (GX5550UFT/GX5550VFT)
(注：High/Lowの2ポジション設定可能)
変調方式 可変容量ダイオードによる直接周波数変調
周波数偏差 ±3 ppm以内(UHF)、±10 ppm以内(VHF)
占有帯域幅 8.5 kHz以下(UHF)、16 kHz以下(VHF)

受信部

受信方式 ダブルスーパーヘテロダイン
中間周波数 45 MHz、455 kHz
感 度 -6 dB μ 以下(12dB SINAD)
受信出力 10%歪率にて1.6 W以上 最大出力2.0 W以上
スプリアス 60 dB以上

本 体

寸 法 高さ：27 mm 幅：115 mm 奥行：145 mm
但し突出部を除く
質 量 約580 g

電源部

電源電圧 13.8 V/26.4V DC \pm 10%
接地方式 マイナス接地
消費電流 送信時：最大 3.0 A
最大 3.5 A (GX5550UFT/GX5550VFT)



Radio Communication Solutions

株式会社 ジャパンエニックス

JAPAN ENIX CO.,LTD.

- 本 社 東京都品川区南品川 2-7-18 TEL 03-5715-2351
- 関 西 支 店 大阪市西区千代崎 1-24-11 TEL 06-6583-7700
- 札幌営業所 名古屋営業所
- 仙台営業所 九州営業所

<https://www.jenix.co.jp/> 営業所住所はこちら▶



株式会社スタンダード

〒153-8645 東京都目黒区中目黒 4 丁目 8 番 8 号

お問い合わせは、
最寄りの株式会社スタンダード、各営業所、サービスセンター
で承っております。付属の全国営業所一覧をご覧ください。

この取扱説明書は、再生紙を使用しています。